



 豊田市
Toyota City



豊田市の概要

豊田市は、ミライに向けた先進的な取組にチャレンジしています。

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、愛知県全体の17.8%を占める広大な面積を持つまちです。

全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られ、世界をリードするものづくり中枢都市としての顔を持つ一方、市域のおよそ7割を占める豊かな森林、市域を貫く矢作川、季節の野菜や果物を実らせる田園が広がる、恵み多き緑のまちとしての顔を併せ持っています。

それぞれの地域の持つ特性を生かし、多様なライフスタイルを選択できる満足度の高い都市として更なる成長を目指しています。



<豊田市の概要>

人口 41万3,894人 (2025年11月1日時点)

面積 918.32km²

- SDGs未来都市 (2018年選定)
- 全国市区SDGs先進度調査 全国1位
※日経グローバル 発表(2025)
- 中核市幸福度 総合1位(5回連続)
※(一財)日本総合研究所 発表(2024)
- 共働き子育てしやすい街 東海1位(全国8位)
※日経クロスウーマン・日本経済新聞社 発表(2024)

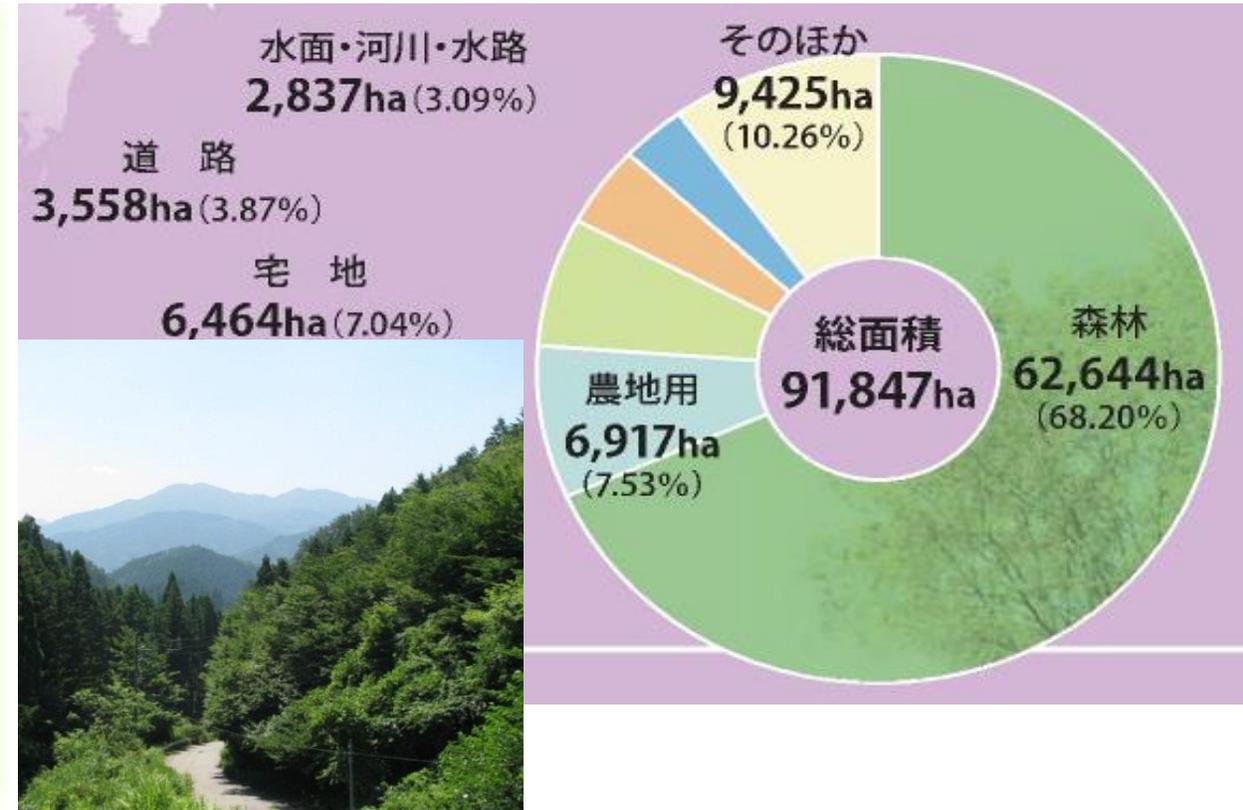
豊田市の自然環境

平成17年に近隣6町村と合併



都市部(市域面積の約30%)
人口:39.8万人(95.6%)

市域の7割を森林が占める



山間部(市域面積の約70%)
人口: 1.83万人(4.4%)



豊田市の取組

都市と山村の2面性を生かし
環境だけでなく **社会・経済**にも
統合的に取り組む



3つの重点分野

- エネルギー
- **モビリティ**
- ウェルネス



里モビLIFEプロジェクト

里山における自由・安全・安心な移動を作る

事業目的

公共交通が限られた山里において、高齢者ができるだけ長く、自らの意思で自由に、安全に、安心して移動できる社会を実現し、ひとりひとりの生涯生活の質を高め、持続可能な地域社会を目指す。

地域住民自らが超小型モビリティ「コムス」を中山間地域に適した仕様に改造し
日常の移動用として活用することで、超小型モビリティの有用性や移動支援の可能性について検証



里モビLIFEプロジェクトの座組

活動拠点「つくラッセル」

リース

地域住民



対価



(一社)里モビニティ
活動拠点「里モビ活用工房」の運用、情報発信

名古屋大学など
モビリティ活用型コミュニティの構築に向けた調査研究

負担金

豊田市
持続可能な仕組みの構築に向けた支援

寄付金
企業版ふるさと納税

賛助企業

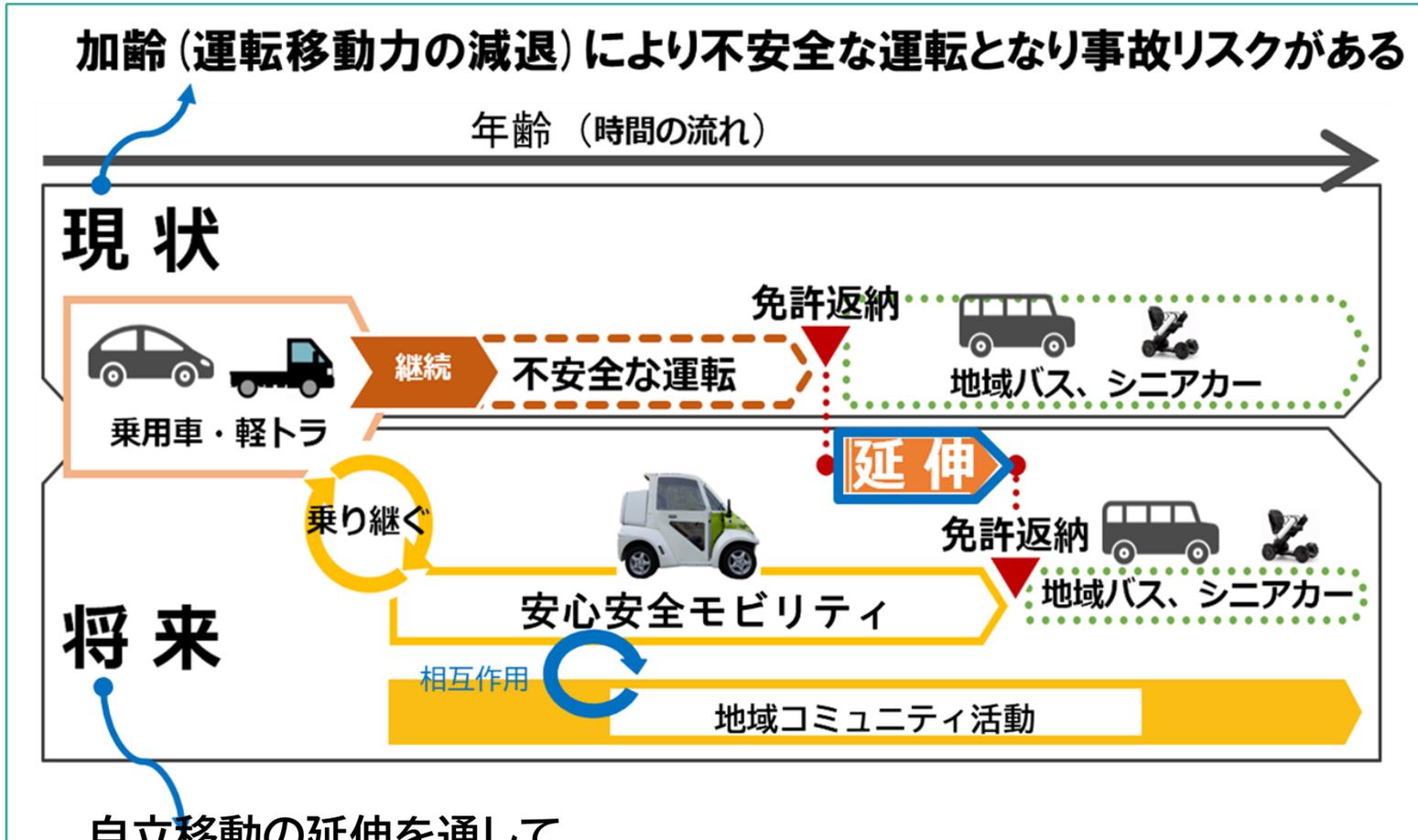


つくラッセル



里モビLIFEプロジェクトが目指す姿

里モビ利用高齢者の外出率が増加。特に食事等の外出、友人知人宅の訪問、寄り合いや地域活動への外出が増加。
自立性の向上や社会参加の増加によりQOLが向上！



自立移動の延伸を通して、

・健康リスクの低下し、生涯QOLが高まり、さらに、地域社会の持続性も高まる

つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた

